



# 「いじめ・暴力ゼロ」をめざした学校づくり

## 良い影響が与えられる子

前は、「目標を決めてチャレンジする子」についてお話ししました。もう一つ、強い思いで子どもたちに指導している大事なことがあります。それは、「良い影響が与えられる子」を育てたいということです。

ここで言う「良い影響」とは、遠阪小学校全体が良くなっていく「発信源」となる考えや行動であり、是非みんなに広めていきたい考えや行動のことです。例えば、「いじめは絶対に許さない」、「みんなでするものを大切にしよう」という考えや行動などです。

こうした「良い影響」をもたらす考えや行動が、学校全体に広がっていくよう、子どもたち一人一人の日常の言動に対し、絶えず評価を加えながら指導を続けていきます。

## 2学期の始業式は、1年生のこの発表で力強くスタート!

「良い影響が与えられる子」——低学年の子どもたちには難しい言い方です。しかし、2学期の始業式での校長講話の

時のことでした。「4月から校長先生がこんな子になってほしいといつも話している二つのことは？」と問いかけると、全校生の中で真っ先にさつと手を挙げ、「良い影響が与えられる子」と答えたのは、何と、1年生の西田月空さんでした。これには本当にびっくりしました。1年生なりに理解してくれているのだと思うと、とても嬉しい気持ちになり、2学期が力強くスタートできるといい思いになりました。

子どもたち一人一人の「良い影響」をもたらす考えや行動は、学校生活の中で様々な場面で見られます。そうした考えや行動を見逃さないで価値付けて、学校全体へと広げていくよう取り組んでいきます。

## 「いじめ・暴力を絶対に許さない」考えや行動を浸透させよう!

中でも、学校全体に是非とも広げ、根づかせ、浸透させたい考えや行動があります。それは、「いじめ・暴力を絶対に許さない」考えや行動です。

本校では、いじめの未然防止や早期発見・早期対応などの考え方や取組方針、取組内容を示した「学校いじめ防止基本方針」を策定しています。どんなに少数の学校(学級)であっても、子どもたち同士の人間関係次第では、いじめは起こり得るとの認識に立ち、いじめを許さない心を育てる学習や、日々の生活の中

でいじめの芽となる発言や行動を素早く察知し摘み取る取組を、家庭と連携し理解を求めながら進めています。毎学期、適時、アンケート調査を実施して子どもたちの人間関係などを把握するようにもしています。

1学期の校長講話では、「いじめ防止標語コンテスト」全国賞作品の中から、いくつかの作品を取り上げて、子どもたちと「いじめ」について考え合いました。そうした中で、左の3つのことを確かめました。

- とくいなこと にがてなこと みんなあるからだいじょうぶ
  - 「やめてよ」はなかなか言えない 「やめなよ」は言える
  - 変えようよ いじめる人と ただ見る自分
  - 「なくそう」という 100の言葉より 「なくす」ための 1つの行動
  - ぼくやめる いじめが消える 第一歩
  - いじめの芽 つみ取る自分に なりたいな
- 第7回「いじめ防止標語コンテスト」全国賞作品より ——

- いじめに気付いているのに、「何もしない子」にならない。
- 自分が「いじめる子」にならない。
- いじめをなくすために「行動できる子」になる。



▲校長講話 いじめについて考える

## 新しい職員紹介

9月8日から、本校に新しい職員が増えました。主に、2・3年の授業や学校の事務にかかわります。毎週、火、木、金曜日に勤務します。よろしくお願ひします。

職名 非常勤講師  
氏名 安達 千佳

